

「タンデム自転車の可能性と自転車まちづくり①

●タンデム自転車

2つ以上の乗車装置、ペダルが縦列に設けられた自転車。前に乗る人を「パイロット」、後ろに乗る人を「ストーカー」と呼びます。



◇特徴

- ・二人でこぐため速度が出やすい
- ・ストーカーはハンドル操作の必要がない
- ・車体が長く、小回りが利きにくく内輪差に注意が必要
- ・道路交通法上「軽車両・自転車」だが「普通自転車」ではない

●タンデム自転車を取りまく交通規制について

昭和53年 道路交通法改正

- ・普通自転車
- ・普通自転車ではないタンデム

標識で定める場所やその状況によって、歩道走行が可能
乗車装置の数などをさだめる施行細則によって走行規制

滋賀県の場合

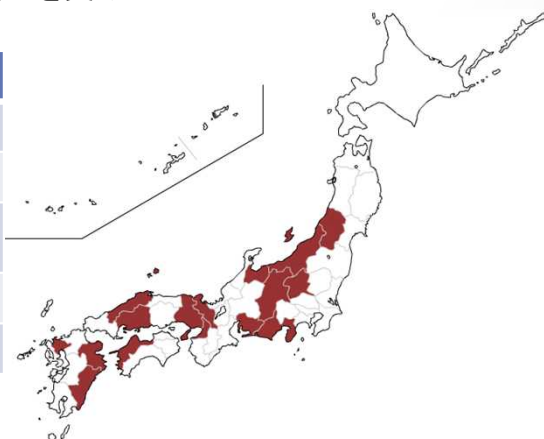
タンデム自転車で走行可能な道路 ⇒ 県内は自転車専用道路のみ

滋賀県内では一般公道を走行ができない****

●全国状況

全国でも、視覚障害者団体からの要望やサイクリング協会からの要望を受けて
16府県で公道走行が解禁。

府県名	解禁年	解禁の理由	一部・全部
長野県	1960年～	観光地でのレンタサイクル	全部
兵庫県	2008年～	県民からの要望	全部
京都府	2015年～	視覚障害者支援団体、京都サイクリング協会	全部
大阪府	2016年～	視覚障害者支援団体	全部
他、12府県			



●タンデム自転車への公道走行を期待する声

サイクリスト

- ・タンデム自転車で「ビワイチ」したい
- ・親子、夫婦でタンデム乗りたい

視覚障がい者

- ・買物、通勤、行動範囲が広がる
- ・社会復帰が早まる

パラアスリート

- ・パラリンピック出場のため練習したい
- ・トライアスロン大会を開催したい



「タンデム自転車の可能性と自転車まちづくり②」

●タンデム自転車の走行実証実験と取組



(1)関係者による走行体験会

日時:平成29年7月31日

場所:滋賀県庁 中庭駐車場

参加団体:滋賀県庁関係職員、滋賀県警 25名

講師:「大阪でタンデム自転車を楽しむ会」藤江徹氏



【講習を受けた感想】

- ・指導レチャーや人材が必要
- ・坂道を体験したい
- ・視覚障がい者への声掛けに工夫が必要
- ・前後の相性が必要と感じた

(2)三日月知事によるタンデム体験と視覚障害者団体との意見交換

日時:平成29年10月9日 (意見交換 10月22日)

場所:彦根市総合運動場 (視覚障害者センター)

参加団体:一般参加者、視覚障害者団体

実施団体:NPO法人 五環生活



【視覚障がい者からの意見】

- ・2, 3泊してビワイチを楽しみたい
- ・行動範囲が広がる。
- ・運動不足の解消になる。社会復帰が早くなる。
- ・災害時にも使えそう

【三日月知事】

- ・タンデム自転車は普通自転車と違った楽しみがあると感じた
- ・みなさんの思いをカタチに出来るよう行動していきたい



(3)タンデム自転車公道に見立てた走行実証実験

日時:平成29年11月7日

場所:東近江市栗見新田町 (湖岸管理用道路)

参加団体:視覚障害者団体、市職員、メディア4社

協力団体:NPO法人 五環生活、(株)まっせ、トライアスロン協会

発進・停止

- ・パイロットよりもストーカーが軽量の場合や走行回数が多くなると、ふらつきは少なくなる

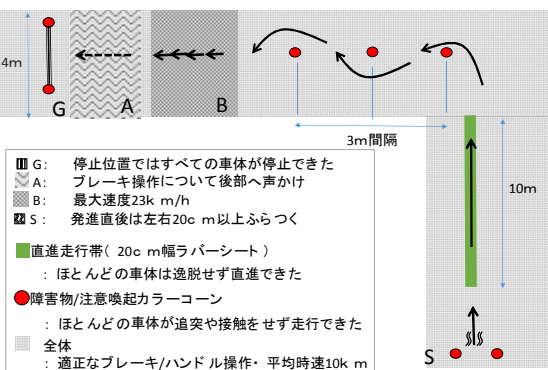
走行

- ・前後でコミュニケーションを取り合いながら、安全に走行しようという意識

カーブ

・狭い道

- ・パイロットが適切なスピードを判断
- ・操作内容をストーカーへ適切につたえる



公道に見立てた走行実験 配置図と観測された事象

- ・参加者の7割がタンデムの乗車が「はじめて」「2回目」であるにもかかわらず、**危険につながるような状況は確認できなかった。**
- ・アンケート結果から、「もし、公道走行が可能となった場合、一般道路を安全に走行できると思うか。」の質問に対し、**8割の方が「できる、ほぼできる」という回答を得た。**

一般道での走行が解禁となった場合、パイロットの養成、タンデム独自の交通ルールの周知、道路環境整備等が必要